

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
家庭医療後期研修プログラム認定事項変更申請書

2015年10月14日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会

理事長 殿

以下に記載した内容で、家庭医療後期研修プログラムの内容の一部変更を認めていただけますようお願いいたします。

プログラム責任者署名（自署） 関口 哲夫

プログラム名称（変更する場合は変更前の名称）			
地域包括医療ケアのマネジメントが学べる家庭医後期研修プログラム（おがの）			
プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	関口 哲夫	指導医認定番号	2012-123
所属・役職	国保町立小鹿野中央病院 院長		
所在地・連絡先	住所 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野 300 電話 0494-75-2332 FAX 0494-75-3313 E-mail sekitetu@town.ogano.lg.jp		
連絡担当者氏名*・役職	* プログラム責任者と別に連絡 担当者がある場合のみ記載		
連絡先	電話	FAX	
	E-mail		
変更箇所の一覧			
項目番号・項目名 (例：4. 研修期間)	変更前	変更後	
6. プログラム内容 家庭医療専門研修	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 奈義ファミリークリニック 松下 明(2013-117)	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 奈義ファミリークリニック 松下 明(2013-117)	
	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 国保小鹿野中央病院 関口 哲夫(2013-235)	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 国保小鹿野中央病院 関口 哲夫(2013-235)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 南須原医院 南須原 宏城(2013-444)	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 南須原医院 南須原 宏城(2013-444)	
		<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 六ヶ所村医療センター 松岡 史彦(2012-013)	

1. プログラム名称			
地域包括医療ケアのマネジメントが学べる家庭医後期研修プログラム（おがの）			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	関口 哲夫	指導医認定番号	
所属・役職	国保町立小鹿野中央病院 院長		
所在地・連絡先	住所 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300 電話 0494-75-2332 FAX 0494-75-3313 E-mail sekitetu@town.ogano.lg.jp		
連絡担当者氏名*・役職	* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先	電話	FAX	
	E-mail		
3. プログラムの概要			
<p>当プログラムは、患者・家族を中心とした思いと組織とでつながる小鹿野町の地域包括ケアシステムのマネジメントが学べる家庭医療専門医養成コースである。</p> <p>小鹿野町は、埼玉県の西北、秩父地域の北の県境にあり、両神山などの山並みに囲まれ、西秩父の中心として絹の交易で栄えたなごりを祭りや文化に留める歌舞伎の町としても知られている。人口約1万2600人、高齢化率32%と高齢化の進んだ町である。埼玉県内で最も高齢化が進んでおり、平成26年度は高齢者の1人あたりの医療費（715,840円）が県内で一番安いことでも注目されている。小鹿野町では昭和28年から国民健康保険直営の町立病院を運営する一方、町民ひとりひとりに関わる保健師活動によって地域の健康ニーズを掘り起こし独自の保健・福祉サービスを展開してきた。平成14年の病院の増床（一般病棟45床、療養病床50床）に併せ、保健・福祉部門を病院に移転、保健・医療・福祉施設がそれぞれに行ってきたサービスの供給の仕方を改善し、一貫したサービスの提供を行えるような環境をつくり、有機的な連携を図っている。</p> <p>広島県御調町を参考にしながら、保健・医療・福祉がひとつにつながり、健康維持・増進、治療、介護、福祉にかかわる地域包括ケアシステムを行政主導で展開し、機能しているのが小鹿野町の特徴である。</p> <p>平成16年には、包括ケアシステムの確立と保健師を中心とした精神保健活動が評価され、朝日生命保険会社から保健文化賞を受賞している。また、同年からは、保健・福祉行政が医療と組んで、寝たきりにつながる生活習慣病を予防するために、医療・栄養・運動の行動変容を低コストで継続的に個別支援する、健康増進事業・メディコ・トリムを実施し、高血圧・糖尿病患者の薬物治療からの離脱・減薬の効果をあげてきた。</p> <p>現在の高齢化率に至る過程で、生活習慣病予防やねたきり予防、一次救急、内科・外科の総合診療科への統合と、慢性疾患の管理、リハビリ、緩和ケア、在宅診療、看取りなど地域のニーズに応じた医療サービスの展開に努めてきているところである。</p> <p>当院は埼玉県から派遣の自治医大卒業生に支えられてきているが、彼らは当院に勤務することにより、患者・家族の思いに寄り添い、総合医として継続的・包括的にチームで支援する姿勢と能力を身につけている。当プログラムの導入により彼らを派遣の義務年限内に家庭医療専門医として育成することが可能となれば、このような勤務医不足の地域にとって大きな力となり、さらに彼らが指導医として屋根瓦方式で後輩の指導をするシステムの構築が可能となる。</p>			

教育資源としては、保健・医療・福祉の財政を担う行政、地域の健康ニーズを把握し幅広い年代・健康状態に合わせた健康づくりや予防活動とポピュレーションアプローチを実践している保健部門、健康弱者や高齢者の生活を面で支える福祉部門の事業や各専門職とのチーム活動がある。この度、地域包括ケアシステムを活かした系統的なカリキュラムを構築し、研修医の育成環境の基盤整備を行っている。

本プログラムは、住民が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らし続けることができるために、家庭医に必要な医学的な知識と技術、患者中心・家族志向の医療を提供する能力を身につけながら、多職種と協働して継続的かつ包括的にチームで支援する能力、地域包括医療ケアをマネジメントする能力を身に着けた家庭医療専門医を育成し、地域医療の向上に資することを目的としている。

【本プログラムの目的】

21世紀を迎え、急速に進む少子高齢化・人口減少のなか、疾病構造が大きく変わりつつある。国民病とも言われる生活習慣病（高血圧、糖尿病、脳血管疾患、心疾患、がん等）は、合併症による重症化や寝たきりの原因となり、生活の質を著しく低下させるのみならず、医療費や介護費による負担で生活を圧迫し、不幸をもたらすものである。また、このような状況は地域の財政をも逼迫させ、医療を含めた地域崩壊が懸念され、その対策が急がれている。

医療の役割もキュアからケアへとニーズが移り、疾病の知識・技術に加え、在宅での療養環境に幅広く対応する力と統合する力もまた重要になってきている。

当院が構築したこのプログラムは、地域の診療所や中小病院で第一線の医療を行うことができる家庭医としての能力を身につけながら、行政と連携して地域に必要な疾病対策に取り組む能力、他地域にも地域包括ケアシステムを立ち上げることができる能力を育成し、地域医療の向上に資することを目的とする。

【本プログラムの特徴】

- 1、 地域包括医療ケアのマネジメント能力を身に着けることを最大の特徴とする。
- 2、 小鹿野中央病院総合診療科に在籍し、病棟診療をベースに家庭医の核となる患者中心、家族志向で包括的な継続した診療からケアまでを修練する。
- 3、 総合診療科外来、生活習慣病外来等で、多くの common disease を経験し家庭医に必要な医学的知識、技術、医師の備える能力を習得する。また、一次、二次救急での対応を状況に応じて経験する。
- 4、 小鹿野町地域包括ケアシステムの研修。

【地域包括ケア研修プログラムの概要】

G10:

研修医は、家庭医の概念を理解し、地域のニーズに応える良質な家庭医療を提供する能力を身につける。さらに、住民が住み慣れた地域で最期まで安心して生活し続けられるために、地域包括医療ケアの概念を理解し、地域の医療、保健、福祉、介護、施設等の社会資源および地域住民のニーズを把握し、関係する多職種の役割を理解し、協働する態度を身に着け、地域に必要な疾病対策、地域包括ケアシステムをマネジメントしていく能力を習得、実践する。

- SB01：サービス提供側の社会資源と各専門職の役割を理解し協働できる。
- SB02：サービス利用者側のニーズを把握し、患者中心・家族志向の概念に沿って適切な判断と包括的なケア対応ができる。
- SB03：地域包括ケアに関する会議を運営し、地域包括ケアシステムをマネジメントすることができる。
- SB04：地域の健康問題を把握し、効果的な疾病予防、健康増進活動ができる。

4. 研修期間			
3 年間			
5. 専攻医定員			
1 年あたり 2 名 (×研修期間年数=総定員 名)			
6. プログラム内容			
家庭医療専門研修			
研修領域	期 間	研修施設名 (病院の場合は診療科名も)	学会認定指導医氏名 (認定番号)
家庭医療専門研修 (6ヶ月以上)	6ヶ月	■診療所 □病院 奈義ファミリークリニック	松下 明(2013-117)
		□診療所 ■病院 国保小鹿野中央病院	関口 哲夫(2013-235)
		■診療所 □病院 南須原医院	南須原 宏城(2013-444)
		■診療所 □病院 六ヶ所村医療センター	松岡 史彦(112-007)
(ブロック研修ができない場合、この欄に記入してください。)	週 日	□診療所 □病院	
	(半日は0.5日)	□診療所 □病院	

	___ヶ月	<input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	
--	-------	--	--

家庭医療専門研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす（■）

- 主として家庭医療を実践している医療機関である
- 外来における患者中心のケアを研修できる
- 継続的なケアを研修できる
- 保健や介護関連の活動を研修できる
- 在宅患者への定期的な訪問診療ができる
- 近接的なケアを研修できる
- 包括的なケアを研修できる
- 家族指向，地域指向のケアを研修できる
- 生活習慣病などの慢性疾患に対する継続的な外来診療ができる

必修の領域別研修			
研修領域	期 間	研修病院名・診療科名	指導医氏名
内 科 (連続した6ヶ月以上)	12ヶ月	国保小鹿野中央病院 総合診療科	黒沢 正喜
<p>内科研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす (■)</p> <p><input type="checkbox"/> 臓器別ではない総合（一般）内科または総合診療科である</p> <p><input type="checkbox"/> 入院診療および外来診療を研修できる</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭医の研修に必要な範囲内で臓器別内科の研修をする場合がある</p> <p>その場合の 診療科名 _____</p> <p>およその期間 _____</p>			
研修領域	期 間	研修病院名・診療科名	指導医氏名
小児科 (連続した3ヶ月以上)	3ヶ月	秩父市立病院	加藤 哲司
		さいたま市立病院	佐藤清二
<p>小児科研修について次の要件を満たす場合は口を塗りつぶす (■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 総合的に小児領域の研修ができる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 入院診療および外来診療を研修できる</p>			

望ましい領域別研修			
研修領域	有無、選択・必修の別 および期間	研修施設名・診療科名	指導医氏名
一般外科	必修・選択・なし __2ヶ月	小鹿野中央病院 外科	大野 哲郎
婦人科	必修・選択・なし __1ヶ月	小鹿野中央病院 婦人科	今井 雄一
精神科／心療内科	必修・選択・なし __2ヶ月	小鹿野中央病院 精神科	新井 久稔
救急医学	必修・選択・なし __2ヶ月	小鹿野中央病院 整形外科	吉原 恵美子
整形外科	必修・選択・なし __2ヶ月	小鹿野中央病院 整形外科	関口 哲夫
皮膚科	必修・選択・なし __1ヶ月	井上皮膚科	井上 靖
泌尿器科	必修・選択・なし __1ヶ月	秩父市立病院	川口 拓也
眼科	必修・選択・なし __1ヶ月	小鹿野中央病院 眼科	竹内 大
耳鼻咽喉科	必修・選択・なし __1ヶ月	小鹿野中央病院 耳鼻科	塩谷 彰
放射線科(診断・撮影)	必修・選択・なし		
臨床検査・生理検査	必修・選択・なし		
その他の選択科 総合健診	必修・選択・なし __1ヶ月	小鹿野中央病院	黒沢 正喜
その他の選択科 ()	必修・選択・なし __ヶ月		
7 専攻医の評価方法 (研修修了認定の方法も含めて、計画等具体的に)			

メールによる指導医との随時連絡。月1回、研修内容のレポートポートフォリオを提出。指導医と振り返りによるフィードバックを行い、進捗状況を確認、形成的評価を行う。1月に1回、カンファレンスを行い、医局員参加のポートフォリオ作成の支援をする。また、検討会を行い、症例の選択、進捗状況を評価する。地域包括ケアの研修後には包括ケアチームによる360度評価を行い、指導医が総合的にフィードバックする。年2回、小ケースポートフォリオの形で発表会を行い、医師スタッフ、院内コメディカル、包括ケアチームにより評価を行う。院外活動は、参加者へのアンケートや研修医のレポートで評価する。年1回の学会発表を行う。年1回、研修医の振り返りをもとに関係したチーム、同僚、指導者により360度評価し、目標達成度を継続して評価する。80%以上の目標達成および成績で及第とする。総括的評価は、ポートフォリオの課題達成と、プログラム目標の80%以上の達成で及第とする。

3年修了時、上記の年次評価と地域包括医療ケアの研修成果として取り組んだ課題をもとに指導医が総合判定を行う。

8. プログラムの質の向上・維持の方法

月1回、研修目標の進捗状況を確認し、研修医の振り返りによる意見を参考に、目標達成の支援方法を継続的に講じる。年に一度、研修医の評価時期に合わせてプログラム委員会で研修スケジュールやプログラム内容を評価し、問題点の検討と改善を行い、質の向上に努める。

9. 5年間の実績

2012年度	新規研修開始者数	1名
	研修修了者数	名
2013年度	新規研修開始者数	1名
	研修修了者数	名
2014年度	新規研修開始者数	1名
	研修修了者数	1名
年度	新規研修開始者数	名
	研修修了者数	名
年度	新規研修開始者数	名
	研修修了者数	名

10. 現在の在籍専攻医数（研修休止中の者を含む）

1年目	名	2年目	1名	3年目	1名	4年目	名
-----	---	-----	----	-----	----	-----	---